



徳島県上勝町では、町民が自分でごみステーションにごみを持ち込み、34 分別する（ゼロ・ウェイストアカデミー提供）

2次3次審査の結果と順位付け

■ 2次審査：100点からの減点評価（施設の建設・運営に適さない用地を評価する視点）

大項目	小項目	岩戸	滝	武西	吉田	現在地
生活環境の保全	地域住民の日常生活への影響	-5	-10	-10	-5	-5
	住宅・学校など	-5	0	-10	0	0
	病院など	0	0	-10	0	-10
自然環境等の保全	地域景観への影響	-1	-3	-3	-1	-2
	里地里山の保全	-10	-10	-7	-4	0
	生物多様性の保全	-5	-5	-5	-5	0
法規制	地球温暖化防止	-10	-9	-9	-10	-9
	航空規制	0	0	0	0	0
	各種規制の状況	0	0	-5	-5	0
	埋蔵文化財包蔵地 農用地区域 生産緑地地区	0	0	0	0	0
地盤の安定性	用途地域の適合	0	0	0	0	-5
	液状化予測地域 地形の状況（土砂災害など）	0	0	0	0	0
減点評価結果（最大-100）		-36	-37	-59	-30	-36
A（100点から減点後の点数）		64	63	41	70	64
2次審査の評価順位		(2)	(4)	(5)	(1)	(2)

■ 3次審査：100点までの加点評価（よりよい施設となり得る用地を評価する視点）

周辺住民の理解度・協力度	周辺住民の理解度・協力度の状況（高い候補地が望ましい）	9	6	7	27	7
経済性	（用地取得、基盤整備、建設費用の合計が安価な方が望ましい）	29	29	29	29	30
地域社会貢献度	地域活性化への寄与（高い候補地が望ましい）	17	19	19	19	20
B（加点評価結果（最大100））		55	54	55	75	57
3次審査の評価順位		(3)	(5)	(3)	(1)	(2)
A + B（総合評価結果）		119	117	96	145	121
総合順位		(3)	(4)	(5)	(1)	(2)

印西地区環境整備事業組合（管理者・板倉正直印西市長）の次期中間処理施設整備事業用地検討委員会は9月30日、5つの候補地を点数評価した結果を板倉管理者に答申しました。点数評価は、旧印旛村の吉田地区の候補地が1位になりました。

次期中間処理施設の移転 「吉田1位」を答申

評価結果は、次のとおりです。

- 1位・吉田（145点）
- 2位・現在地（121点）
- 3位・岩戸（119点）
- 4位・滝（117点）
- 5位・武西（96点）

吉田地区では、住民の理解・協力が他の地域と比べると進んでいることが高い評価を受ける結果につながりました。

9月30日の答申を受けて、管理者は、副管理者（白井市長、栄町長）と管理者・副管理者会議を開催して協議し、12月に次期中間処理施設の移転予定地を決定します。

地元との協議、環境アセスメントなどの時間を考えると、クリーンセンターが移転するのは早くても7～8年後になります。ごみ減量化が進めば、印西地区環境整備事業組合の新しい中間処理施設に必要な焼却炉のサイズが小さくなり、日量の処理能力が1トン小さくなると、炉の建設費が約5,000万円安くなる、という試算があります。固クリン推進課次期中間処理施設対策室（☎内線381）。